

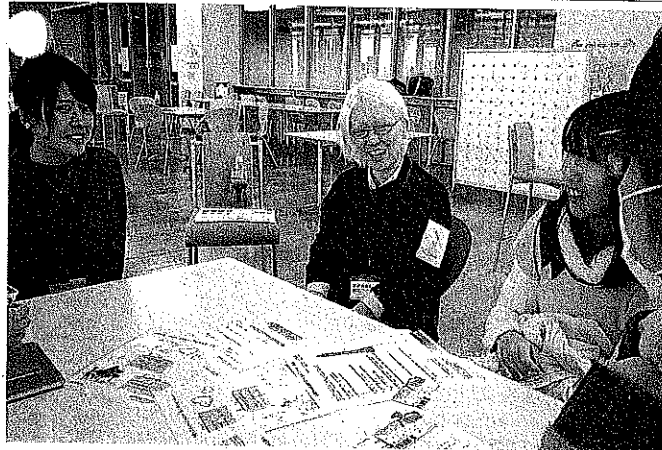
嫌な思いもしたけれど…

マイノリティーと語る

「いきている図書館」

愛知淑徳大で交流イベント

多様な生き方をする人たちが自身の経験や思いを語る「いきている図書館」が14日、愛知淑徳大星が丘キャンパス(名古屋市中種区)で開かれた。「性的少数派(セクシュアルマイノリティー)」の人



愛知淑徳大の学生に自身の経験を語る
広瀬真由子さん(中央)

や身体障害者らが学生たちと交流した。イベントはデンマーク発祥。人を「本」に見立て、来場者の「読者」と対話する。ビジネス学部のゼミが主催した。

「貸し出し」は、1回30分。メラニン色素が欠乏する「アルビノ」の広瀬真由子さん(23)と武蔵野音楽大音楽学

科4年IIには、「つらかった体験は」「知ってほしいことは」などの質問が出た。広瀬さんは「個性が強くて嫌な思いもしたけれど、合唱は無個性の『一般人』になれる瞬間」などと語った。対話した愛知淑徳大3年の後藤まいさん(21)は「マイノリティーであって

も、普通の人だと広く知ってもらいたい」と話していた。交通事故で右半身が不自由になった野田実紀さん(41)は「同市天白区IIは『できないことも増えたけれど、今の自分を見て話を聞いてもらえて楽しかった』と感想を述べた。

【加藤沙波】

2015年 2月 15日 毎日新聞 朝刊より

この記事・写真等は毎日新聞社の承諾を得て転載しています。